

1 5月26日(日) 13:15-16:45

13:15-14:15 イントロダクション

14:30-16:00 プレレクチャー
「劇場で考える
～他人ごと、自分ごと～」

16:10-16:45 感想シェア会

2 6月15日(土) 13:00-16:15

13:00-15:00 「ライカムで待っとく」鑑賞

15:15-16:15 対話の時間

今回の作品『ライカムで待っとく』は、沖縄を舞台にした作品です。みなさんは沖縄にどのようなイメージを持っているでしょうか？沖縄の歴史を振り返ろうとした時に、そのイメージはどの程度変わるのでしょうか？遠くの出来事が「自分ごと」になるきっかけは人によってさまざまですが、今回のユースプログラムへの参加があなたにとって、そのきっかけのひとつになるかもしれません。レクチャー、対話、そして作品鑑賞を通じて、誰かの物語と自分自身の存在とを重ね合わせるような経験をしてみましょう。

——企画監修・進行 長津 結一郎
(九州大学大学院芸術工学研究院准教授)

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走/伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行っているほか、音楽実技やワークショップに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュースにも関わる。2013年東京藝術大学大学院博士後期課程修了、博士(学術・東京藝術大学)。著書に『舞台の上の障害者:境界から生まれる表現』(単著。九州大学出版会、2018年)、『アートマネジメントと社会包摂』(共編著。水曜社、2021年)など。



前期
参加者募集!!

作品の鑑賞と
参加者同士の対話などを
組み合わせたプログラム。

対象 / 15~25歳程度 ○指定する日程(5/26、6/15)にすべて参加できること

定員 / 15名 ※定員を上回る応募があった場合は抽選で参加者を決定します。締切後、応募者全員に結果をご連絡いたします。

料金 / 1,500円(高校生1,000円) ※料金には公演チケット料を含んでいます。チケットの手配は不要です。
※お支払い方法は参加決定後、ご連絡いたします。

応募方法 / 次の①~⑧を明記の上、応募先まで電子申請、郵送のいずれかでご応募ください。
①ユースプログラム前期参加希望 ②氏名(ふりがな) ③年齢 ④所属先(あれば。学校名/会社名など)
⑤メールアドレス ⑥電話番号(携帯番号) ⑦住所 ⑧応募動機(文字数の規定はありません)
※電子申請での応募の場合、返信をもって受付完了とします。5日以上たっても返信がない場合は、お問い合わせ先までご確認ください。
[電子申請URL] <https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/Rkof2wzL>

募集締切 / 2024年5月16日(木) 必着

ご応募・お問合せ / 久留米シティプラザ「ユースプログラム」係
TEL 0942-36-3000 (10:00 ~ 19:00 / 全館保守点検による休館あり) FAX 0942-36-3087
kcp-j@city.kurume.lg.jp



交通アクセス

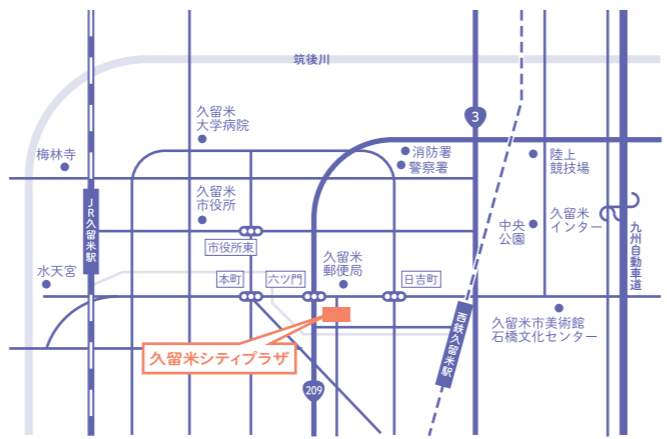
久留米シティプラザ

〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町 8-1

- JR : 久留米駅から路線バス10分、徒歩20分
- 西鉄電車 : 西鉄久留米駅から路線バス5分、徒歩10分
- バス : 「六ツ門・シティプラザ前」バス停下車
- 自動車 : 久留米I.C. から約15分

※久留米シティプラザ地下駐車場(109台/1時間200円)
ほか周辺の駐車場をご利用ください

<https://kurumecityplaza.jp/>



日程 | 2024年5月26日(日)、6月15日(土) 全2回

募集締切 | 2024年5月16日(木)必着 会場 | 久留米シティプラザ

主催 久留米シティプラザ(久留米市) 連携 九州大学芸術工学部、九州大学大学院芸術工学府



実施概要

久留米シティプラザで2022年度から行なっている「知る／みる／考える 私たちの劇場シリーズ」は、アーティスト独自の視点で時代を捉え、表現方法をも模索し応答する意欲的な作品を紹介しています。このシリーズに合わせて、若者が作品を鑑賞するための入口づくりを目指して、作品の鑑賞に参加者同士の対話の時間などを組み合わせたのが、ユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」です。

2024年度前期に取り上げるのは、「ライカムで待っとく」です。芸術に触れてみたい方、今まで知らなかった世界へ踏み出してみたい方など、みなさまの参加をお待ちしています。



2022年度初演より 撮影／引地信彦

知る／みる／考える 私たちの劇場シリーズ vol.5

「ライカムで待っとく」

アメリカ占領下の沖縄で起こった米兵殺傷事件に基づくノンフィクションに着想を得て、沖縄在住の劇作家・兼島拓也が書き下ろし、沖縄に出自を持つ田中麻衣子が演出を手掛けた演劇作品。「沖縄の犠牲の上に成り立っている日本という国」という想いを織り込んだ本作は、過去、現在、未来が交錯する軽快なミステリータッチの物語。「沖縄の問題」はなぜ「日本の問題」として語られないのか、ここ久留米で問い直す。

あらすじ 雑誌記者の浅野は、60年前の沖縄で起きた米兵殺傷事件について調べることになったのだが、実はその容疑者が自分の妻の祖父・佐久本だったことを知る。調査を進めながら記事を書くうち、浅野は次第に沖縄の過去と現在が渾然となった不可解な状況下に誘われ、「沖縄の物語」が育んできた「決まり」の中に自分自身も飲み込まれていく……。

日時 | 2024年6月15日(土) 13:00 開演

会場 | 久留米座

作 | 兼島拓也 演出 | 田中麻衣子

出演 | 中山祐一郎 前田一世 佐久本宝 蔵下穂波
小川ゲン 神田青 魏涼子 あめくみちこ

企画制作：KAAT神奈川芸術劇場 助成：一般財団法人地域創造

「ライカム」とは

かつて沖縄本島中部の北中城村比嘉地区に置かれていた琉球米軍司令部（Ryukyu Command headquarters）の略。現在「ライカム」は地名として残っている。司令部があった近辺の米軍関係者専用のゴルフ場の跡地には、2015年「イオンモール沖縄ライカム」がオープン。地元民のみならず県外からの観光客も多く訪れる場所になっている。

「米兵殺傷事件」とは

1964年8月16日未明、宜野湾市普天間の飲食街周辺で、米兵2人と数人の沖縄人が乱闘し、米兵1人が死亡、1人が重傷を負った。沖縄青年4人（2人は徳之島出身）が普天間地区警察署に逮捕され、傷害致死罪で米国民政府裁判所に起訴された。事件は陪審に付された。沖縄人に重罪を課せようとする米国人らが陪審員の多数を占め、評議は4人に不利な流れとなったが、無罪を主張する沖縄人陪審員・伊佐千尋の粘り強い説得で形勢は逆転し、傷害致死罪については無罪、傷害罪では有罪の評決に至った。しかし、同年11月の判決では3人に懲役3年の実刑（1人は猶予刑）という初犯としては重い量刑が下った。殺傷事件と沖縄住民への差別意識が渦巻く陪審評議、その後の判決は米統治下に置かれた沖縄の過酷な現実を浮き彫りにしている。



かねしま たくや
作 | 兼島拓也

1989年、沖縄県沖縄市出身。2013年に演劇グループ「チョコ泥棒」を結成し、脚本と演出を担当。沖縄の若者言葉を用いた会話劇を得意とし、コメディやミステリを軸としたオリジナル脚本の上演を行う。また、琉球舞踊家との演劇ユニット「玉どろぼう」としても活動する。脚本を担当したオーディオドラマ『ふしぎの国のハイサイ食堂』（NHK・2021年）で第31回オーディオドラマ奨励賞入選。『Folklore（フォークロア）』（2018年）で第14回おきなわ文学賞シナリオ・戯曲部門一席を受賞。『ライカムで待っとく』が第30回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞、第26回鶴屋南北戯曲賞および第67回岸田國士戯曲賞で最終候補となる。

1 2024年5月26日(日)

イントロダクションで参加者同士が交流した後、「ライカムで待っとく」関連事業として広く一般向けに開催するプレレクチャーに参加します。終了後は、ゲストを交えて感想シェア会を行います。

13:15-14:15

イントロダクション

14:30-16:00

プレレクチャー 「劇場で考える～^{ひと}他人ごと、自分ごと～」

16:10-16:45

感想シェア会

演劇作品「ライカムで待っとく」を鑑賞します。その後に行う「対話の時間」では、作品を鑑賞し、考えたこと、感じたことを言葉にしてみます。他の参加者と対話を重ね、自身の鑑賞体験を深めます。

13:00-15:00

「ライカムで待っとく」鑑賞

15:15-16:15

対話の時間 ゲスト 兼島拓也 (「ライカムで待っとく」作者)

デザイン／河村美季

内容

「ライカムで待っとく」は、アーティストが自身の出身／居住地である沖縄について、独自の視点で捉えた問題を演劇として表現し、社会へ投げかけた作品です。公演の鑑賞を前に、個人が社会に対し、意思を持って働きかけることに焦点を当てたレクチャーを開催します。

私たちは社会にあふれる様々な事象を「他人（ひと）ごと」としてそれほど気に留めない場合もあれば、「自分ごと」として切実に受け止める場合もあります。このレクチャーでは、社会課題を「自分ごと」として捉え、生活圏内における気付きを起点に地域社会へ働きかけている県内在住者をゲストにお迎えし、その動機や内容をお伺いします。レクチャーを通して、「ライカムで待っとく」執筆者であるアーティストの想いに近づく手がかりを探ります。

ゲスト

さかい さきほ
酒井 咲帆（株式会社アルバス代表、いふくまち保育園・ごしょがだに保育園 園長）
2009年4月に写真館『ALBUS』を福岡市中央区警固に立ち上げ、まちづくりを中心に活動の幅を広げる。2018年『いふくまち保育園』、2021年『ごしょがだに保育園』を福岡市中央区に開園し、隣接する公園を整備、運営しながら、ひらかれた場所づくりを実践している。2022年6月より、共に生きることを手放さないために、デザインの可能性を社会に実装していくプロジェクト「福祉とデザイン」を行う。2児の母。

なかがただこ
中垣 忠子（東国分校区 池の谷自治会 会長）

約40年前から久留米市に在住。池の谷自治会の役員になったことをきっかけに、2018年度から野中町の正源寺山に残る忠霊塔・円形野外講堂・遙拝台などの遺跡について地域住民の理解を深め、平和を語る場にするための取り組みを行う。東国分まちづくり振興会、久留米市文化財保護課と協力しての勉強会や、案内板の製作・設置、戦跡めぐりウォーキング、地元の音楽家と協力した音楽会の開催など、幅広い活動を継続して行っている。

プレレクチャー（5/26）、公演（6/15）は本プログラム参加者以外もご入場いただけます。

※ 詳細は久留米シティプラザ公式WEBサイトをご確認ください。



ユースプログラム後期のご案内

石原海「重力の光：祈りの記録編」2024年10～11月(全2回)予定
北九州にある困窮者支援をするキリスト教会に集う人々と聖書劇を作る日々を記録した、実験的なドキュメンタリー映像作品

※ 詳細は決定次第、久留米シティプラザのWEBサイト他で掲載します。